

一般社団法人 日本生物物理学会
平成 29 (2017) 年度 事業報告
(2017 年 5 月 1 日～2018 年 4 月 30 日)

目次

1. 事業概要
2. 各事業詳細資料
 - 2-1. 学術誌・学術図書発行 (定款第四条第 1 号)
 - 2-2. 学術・科学技術に関する研究発表会、講演会、セミナー等の開催 (定款第四条第 2 号)
 - 2-3. 人材育成 (定款第四条第 3 号)
 - 2-4. 研究業績と技術的実践の奨励と表彰 (定款第四条第 4 号)
 - 2-5. 関連学術団体との連携及び協力 (定款第四条第 5 号)
 - 2-6. 国際的な研究協力の推進 (定款第四条第 6 号)
 - 2-7. 普及啓蒙活動
3. 付属明細
 - (付属明細 1) 処務詳細資料
 - ・総会・役員会等に関する事項
 - ・契約・入札・他に関する事項
 - (付属明細 2) 会員の異動状況
 - (付属明細 3) 事務局の現況 (2018 年 4 月 30 日現在)

1. 事業概要
主な活動は
 - 1) 学術誌・学術図書 (和文誌・欧文誌) の発行
 - 2) 学術・科学技術に関する研究発表会、講演会、セミナー等の開催
 - 2-1) 第 55 回日本生物物理学会年会の開催
 - 2-2) 会員総会シンポジウムの開催
 - 3) 人材育成：学会年会でのキャリア支援説明会の開催
 - 4) 若手奨励賞と学生発表賞について
 - 5) 生物科学学会連合への参画
 - 6) 国際的な研究協力の推進
 - 7) 普及啓蒙活動

7-1) Biophysics and Physicobiology の国際情報発信力強化

7-2) 小中高を対象としたセミナー講師派遣

8) その他

8-1) 学会理事会での TV 会議の活用

である。以下にそれぞれを概説する。

1) 学術誌・学術図書（和文誌・欧文誌）の発行

和文誌『生物物理』第 57 巻 3 号～6 号、Supplement1-1（年会プログラム集）・1-2（年会予稿集：電子版のみ）、第 58 巻 1 号・2 号を刊行した。

欧文誌 Biophysics and Physicobiology（旧 Biophysics） Vol.14、Vol.15 を刊行した。

2) 学術・科学技術に関する研究発表会、講演会、セミナー等の開催

2-1) 第 55 回日本生物物理学会年会の開催

2017 年 9 月 19 日（火）～21 日（木）、熊本大学において、第 55 回日本生物物理学会年会を開催した。参加者総数：1,588 名、演題登録状況：一般演題 845 件（口頭発表 215 件、ポスター発表 630 件）、シンポジウム：276 件（若手奨励賞招待講演含む）であった。

2-2) 会員総会シンポジウムの開催

学会年会における会員総会の直後に、会員総会シンポジウム「国際連携と IUPAB」を企画・開催した。

3) 人材育成：学会年会でのキャリア支援説明会の開催

研究者・学生の企業におけるキャリアアップを支援することを目的とし、年会中に、（株）アカリク山内宗和氏によるセミナーを開催した。

4) 若手奨励賞、若手招待講演賞と学生発表賞について

年会において、若手奨励賞、若手招待講演賞、学生発表賞が授与された。

5) 生物科学学会連合への参画

生物科学学会連合定例会議に継続して出席した。

6) 国際的な研究協力の推進

学会のグローバル化を図るため、熊本年会には海外とのジョイント・シンポジウムを 2 件（台湾、インド）開催した。

昨年度からの誘致活動の結果、IUPAB エジンバラ大会において、21st IUPAB International Biophysics Congress（2023 年）の日本開催が決定した。

7) 普及啓蒙活動

7-1) Biophysics and Physicobiology の国際情報発信力強化

年会時の編集委員会の開催、編集委員長支援者の雇用など、Biophysics and Physicobiology 活性化のための取組を実施した。

7-2) 小中高を対象としたセミナー講師派遣

平成 28 年 10 月より、小学・中学・高校生を対象とした講師派遣サポート事業を開始した。本事業の趣旨は、初等中等教育の場で最先端の科学の魅力を伝え、次世代を担う子どもたちに科学に対する興味を育んでもらうことにより、学会として社会に貢献することである。学会は、派遣授業が可能な講師の情報をホームページ上で紹介し、学校からの希望を受けて各講師に依頼することにより、学校と講師の橋渡しを行う。平成 29 年度は、講師派遣 5 件、研究室訪問 1 件が行われた。

8) その他

8-1) 学会理事会での TV 会議の活用

平成 27 年 12 月より学会理事会への TV 会議システムの活用を始め、平成 29 年度も第 2 回、第 3 回、第 5 回の理事会は、関西地区は大阪大学産業科学研究所に、東京地区は東京大学工学部に集まり、他の地区の理事はそれぞれ自身の PC から中心となる大阪大学産業科学研究所へ接続することによって開催した。また、男女共同参画・若手支援委員会と出版委員会も TV 会議システムを利用し、それぞれの委員でない理事はオブザーバとして委員会に参加した。

この TV 会議システムの利用により、導入前に比べ理事会へ参加するための旅費が大幅に減額された。なお、face-to-face による理事会は、最低限 2 回（定時社員総会後の理事会および学会年会時の理事会）にて実施することとしている。

2. 各事業詳細資料

2-1. 学術誌・学術図書の発行（定款第四条第1号関連）																	
2-1-1. 邦文誌「生物物理」	<p>・第56巻3号～6号・第57巻1号・2号を刊行した。（A4版・隔月刊） 57巻3号 16記事61ページ 57巻4号 15記事64ページ 57巻5号 16記事63ページ 57巻6号 15記事65ページ 58巻1号 13記事77ページ 58巻2号 18記事64ページ</p> <p>【ダウンロード数（2017年5月～2018年4月）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>今期刊行号</th> <th>バックナンバー</th> <th>総計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学会 PDF 版</td> <td>5,604</td> <td>2,366</td> <td>7,970</td> </tr> <tr> <td>J-STAGE 版</td> <td>15,723</td> <td>707,847</td> <td>723,570</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21,327</td> <td>710,213</td> <td>731,540</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第57巻はSupplement1-1（年会プログラム集：印刷体3,300部）、Supplement1-2（年会 予稿集：電子版のみ）も発行した。</p> <p>【冊子体購読数】 機関会員：47、購読（書店経由）：54、購読会員：11（内名誉会員4） 上記に加え、賛助会員8、寄贈会員9にも送付している。</p>		今期刊行号	バックナンバー	総計	学会 PDF 版	5,604	2,366	7,970	J-STAGE 版	15,723	707,847	723,570	合計	21,327	710,213	731,540
	今期刊行号	バックナンバー	総計														
学会 PDF 版	5,604	2,366	7,970														
J-STAGE 版	15,723	707,847	723,570														
合計	21,327	710,213	731,540														
2-1-2. 欧文誌「Biophysics and Physicobiology」	<p>Vol.14（2017.5-12） Regular Article 11、Review Article 5、Note 1</p> <p>Vol.15（2018.1-4） Regular Article 10、Review Article 2、Preface 1、 Hypotheses and Perspectives 1</p> <p>【ダウンロード数（2017年5月～2018年4月）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>今期刊行号</th> <th>バックナンバー</th> <th>総計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,956</td> <td>11,658</td> <td>15,614</td> </tr> </tbody> </table>	今期刊行号	バックナンバー	総計	3,956	11,658	15,614										
今期刊行号	バックナンバー	総計															
3,956	11,658	15,614															
2-1-3. 学会ホームページ	<p>・小中高校への講師派遣サポート事業開始に伴い、ページを作成した。</p>																
2-2. 学術・科学技術に関する研究発表会、講演会、セミナー等の開催（定款第四条第2号関連）																	
2-2-1. 年会運営	<p>・以下の年会を開催した。</p> <p>2017年第55回日本生物物理学会年会 年会実行委員長：山縣 ゆり子 氏（熊本大） 日時：2017年9月19日～21日 場所：熊本大学</p> <p>・以下の年会の開催準備を行った。</p> <p>1) 2018年第56回日本生物物理学会年会 年会実行委員長：沈 建仁 氏（岡山大） 日時：2018年9月15日～17日 場所：岡山大学</p> <p>2) 2019年第57回日本生物物理学会年会 年会実行委員長：永井 健治 氏（大阪大） 日時：2019年9月24日（火）～26日（木） 場所：宮崎シーガイア</p>																

	<p>3) 2019 年第 58 回日本生物物理学会年会 年会実行委員長：大澤 研二 氏（群馬大） 日時：2020 年 9 月 16 日（水）～18 日（金）（予定） 場所：群馬コンベンションセンター</p>
2-2-2. 総会シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の総会シンポジウムを開催した。 第 4 回会員総会シンポジウム「国際連携と IUPAB」 日時：2017 年 9 月 20 日（水）12:45-13:40 会員総会中 場所：熊本大学 A 会場 形式：講演会 講演者：永山 國昭 氏（永山顕微鏡研究所）、野地 博行 氏（東大）
2-2-3. 各種講演会	46 件の協賛・共催・後援を行った。
2-3. 人材育成（定款第四条第 3 号関連）	
2-3-1. 男女共同参画・若手支援活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ Gender Summit 10（2017 年 5 月）に参加した。 ・男女共同参画・若手支援シンポジウム 以下のシンポジウムを実施した。 「男女共同参画のミクロとマクロ — Micro and macro approaches to gender equality in science」 日時：2017 年 9 月 20 日 11:320～12:20（第 55 回年会会期中） オーガナイザー：日本生物物理学会男女共同参画・若手支援委員会 形式：問題提起プレゼンテーションとパネルディスカッション ・第 55 回年会において、キャリア支援説明会として、（株）アカリクの山内宗和氏を迎え、セミナー等を実施した。 ・若手の会 2018 夏の学校への資金援助（20 万円）を決定した。
2-3-2. 男女共同参画学協会連絡会への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画学協会連絡会 運営委員会第 15 期第 3 回、第 16 期第 1 回、第 2 回へ出席した（2017 年 8 月 24 日、12 月 11 日、2018 年 3 月 23 日）。 ・第 15 回男女学協会連絡会シンポジウムに参加、ポスター発表を行った。
2-4. 研究業績と技術的実践の奨励と表彰（定款第四条第 4 号関連）	
2-4-1. 若手奨励賞、若手招待講演賞、学生発表賞の選考、授与	<ul style="list-style-type: none"> ・第 13 回若手奨励賞の選考を行い、第 55 回年会で授賞した。（受賞者 5 名） ・第 2 回若手招待講演賞の選考を行い授賞した。（受賞者 5 名） ・第 2 回学生発表賞の選考を行い授賞した。（受賞者 20 名）
2-4-2. Biophysics and Physico-biology 論文賞	<ul style="list-style-type: none"> ・第 6 回 Biophysics and Physicobiology 論文賞 4 報の推薦論文について審査した結果、以下の 1 論文を第 6 回 Biophysics and Physicobiology 論文賞とし、第 55 回年会で授賞した。 Takeshi Kawabata, Yusuke Sugihara, Yoshifumi Fukunishi, Haruki Nakamura LigandBox: A database for 3D structures of chemical compounds BIOPHYSICS Vol.9 pp.113-121 (2013) ・第 7 回 Biophysics and Physicobiology 論文賞 8 報の推薦論文について、審査を開始した。
2-4-3. Biophysics and Physico-biology Editors' Choice Award	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の 4 報の論文を第 4 回 Editors' Choice Award 受賞論文とし、第 55 回年会で授賞した。

	<p>Determination of locked interfaces in biomolecular complexes using Haptimo_RD Georgios Iakovou, Stephen Laycock, Steven Hayward Biophysics and Physicobiology, Vol.13, pp.97-103 (2016)</p> <p>Conformational shift in the closed state of GroEL induced by ATP-binding triggers a transition to the open state Yuka Suzuki, Kei Yura Biophysics and Physicobiology, Vol.13, pp.127-134 (2016)</p> <p>Model simulation of the SPOC wave in a bundle of striated myofibrils Koutaro Nakagome, Katsuhiko Sato, Seine A. Shintani, Shin'ichi Ishiwata Biophysics and Physicobiology, Vol.13, pp.217-226 (2016)</p> <p>Theoretical Analyses on a Flipping Mechanism of UV-Induced DNA Damage Ryuma Sato, Ryuhei Harada, Yasuteru Shigeta Biophysics and Physicobiology, Vol.13, pp.311-319 (2016)</p>
2-5. 関連学術団体との連携及び協力	(定款第四条第5号関連)
2-5-1. 生物科学学会連合への参画	・第16回定例会議(2017年10月7日)、第17回定例会議(2018年3月5日)に出席した。
2-5-2. 日本学術会議生物物理学分科会への協力	・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理分科会および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会第23期第6回・第24期第1回において報告を行った。(2017年8月29日、2018年3月22日)
2-5-3. 他学会との連携	・日本物理学会、日本顕微鏡学会会員の参加発表奨励による連携強化を行った。
2-6. 国際的な研究協力の推進	(定款第四条第6号関連)
2-6-1. IUPAB(国際純粋および応用生物物理学連合)関連	・21st IBC(2023年)の開催地として誘致活動を行い、誘致に成功した。
2-6-2. ABA(アジア生物物理学連合)関連	・第55回日本生物物理学会年会(2017)において、海外とのジョイント・シンポジウムを2件(台湾、インド)開催した。
2-7. 普及啓蒙活動	
2-7-1. Biophysics and Physicobiologyの国際情報発信力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿を奨励するため、編集支援体制の強化(編集業務支援者の雇用)を実施した。 ・2017年10月、ESCI(Emerging Sources Citation Index)に登録申請を行った。 ・2018年4月、科学研究費助成事業に採択された。
2-7-2. 小中高を対象としたセミナー講師派遣	2018年4月30日現在の講師登録者数は38名。 5件の派遣授業を行い、1件(登録講師3名)の訪問を受け入れた。
2-7-3. 公開講座	第55回年会において市民講演会を開催した。 日時:2017年9月18日(月・祝) 会場:くまもと県民交流館パレア 講演者:原田 慶恵 氏(大阪大学)、今井 由美子 氏(医薬基盤・健康・栄養研究所)
2-7-4. 女子中高生のための関西科学塾への協力	参加者への景品として、学会クリアファイルを提供した。
2-7-5. 物理チャレンジ・国際物理オリンピックへの協力	学会ウェブサイトニュース欄に実施要項を掲載した。
2-7-6. その他国内・国外の啓蒙イベントへの参加	女子中高生夏の学校(2017年8月)にて、参加者に学会クリアファイル、学会パンフレットを配布した。男女共同参画・若手支援委員の理事2名含

	む 5 名がイベントに参加し、参加者への説明を行った。
2-7-7. 啓蒙グッズの制作・配布	文部科学省の平成 26 年度科学技術週間 一家に 1 枚ポスター「動く！タンパク質」を、女子中学生夏の学校および女子中高生のための関西科学塾にグッズ提供として送付した。

3. 付属明細

(付属明細 1) 処務詳細資料

総会・役員会等に関する事項

3-1-1. 総会 (開催日)	2017 年 6 月 24 日 (定時社員総会)
3-1-2. 会計監査会 (開催日)	2017 年 6 月 1 日
3-1-3. 理事会 (開催日)	<p>2017 年 6 月 24 日、9 月 19 日、12 月 16 日、2018 年 2 月 17 日、4 月 28 日 ・上記のうち、2017 年 12 月 16 日、2018 年 2 月 17 日、4 月 28 日に開催された理事会については TV 会議システムを活用した。</p> <p>メール審議 2017 年 6 月 6 日 IUPAB2017 若手支援プログラムについて 6 月 8 日 H28 年度事業報告書・決算報告書の承認 6 月 23 日 第 6 回 BPPB 論文賞 7 月 14 日 BPPB ECA 選考規定改訂 8 月 8 日 日本生理学会大会での連携シンポジウムについて 10 月 13 日 年会参加登録に関する内規 10 月 18 日 「パイオシグナル創薬共同研究拠点」設置に係る要望書について 11 月 6 日 「高出力遠赤外光・分子物質科学研究拠点」認定申請に係る要望書について</p> <p>2018 年 1 月 22 日 「生命創成探究センター」の活動推進に関する要望書について 3 月 22 日 第 6 回論文賞選考委員の推薦</p>
3-1-4. 委員会 (開催日)	<ul style="list-style-type: none"> ・出版委員会 2017 年 6 月 24 日、9 月 19 日、12 月 16 日、2018 年 2 月 17 日、4 月 28 日 ・男女共同参画若手支援委員会 2017 年 6 月 24 日、9 月 20 日、12 月 16 日、2018 年 2 月 17 日、4 月 28 日 <p>(出版委員会、男女共同参画若手支援委員会ともに、2017 年 12 月 16 日、2018 年 2 月 17 日、4 月 28 日開催の委員会は TV 会議システムを利用し、それぞれの委員でない理事はオブザーバとして委員会に参加した。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会誌編集委員会 2017 年 6 月 17 日、9 月 18 日、2018 年 3 月 17 日 ・Biophysics and Physicobiology 編集委員会 2017 年 9 月 19 日 ・HP 編集委員会 2017 年 9 月 18 日

	・賞選考委員会（メール審議） 2017年 8月8日 朝日賞 8月9日 内藤記念講演助成金 9月4日 井上學術賞受賞候補者推薦 9月12日 木原記念 9月12日 東レ科学技術賞・東レ科学技術研究助成 12月11日 藤原賞 2018年 2月9日 山田科学振興財団研究援助 3月20日 日本學術振興賞 上記の各賞に候補者を推薦した。
--	--

契約・入札・他に関する事項

- ・主な新規契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の種類	期間等
2018年4月1日	大阪大学総長	賃貸契約	2018年4月1日～2019年3月31日

- ・入札に関する事項（なし）
- ・その他の事項（なし）

（付属明細2）会員の異動状況

会員種別	会員数		増減	
	2017年4月30日現在	2018年4月30日現在		
正				
会	一般会員	2,147	2,077	▲70
員	学生会員	1,044	991	▲53
	シニア会員	54	60	6
	名誉会員	21	22	1
	機関会員	47	46	▲1
	賛助会員	8	8	0
	総計	3,321	3,204	▲117

今期の新規入会者数

- 一般会員 75名（うち、紹介キャンペーン利用者 2名）
- 学生会員 211名

（付属明細3）事務局の現況（2018年4月30日現在）

会長室	アルバイト1名
-----	---------